

～原子力の  
理解を求めて～

# えねるぎーかわらばん

Vol. 47  
福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)  
事務局：敦賀市平和町24-3-1 TEL：0770-24-5450  
http://www.1.rcn.ne.jp/~genheikyō/

## げんへい きょう こんにちは原平協です

原平協は福井県原子力平和利用協議会の略称です

今回は私達の団体である「原平協」についてお伝えします。このえねるぎーかわらばんは46号まで新聞折込で広報活動をしていましたが、本号より新聞紙面に掲載してまいります。

### 原平協とはどんな団体？

原平協は原子力発電をはじめとする、「原子力の平和利用の推進」を目指しています。

平和利用を推進するには、県民に原子力を正しく理解していただくことが重要です。このため、「原子力の正しい理解の輪を拡げる」ことが、原平協の大きな活動の一つになっています。

原平協には、こうした考えや活動に賛同する民間の人たちが自主的に参加しています。



昭和56年11月 10周年記念 竹村健一講演会

### どうして原平協ができたのかな？

昭和46年頃、関西電力の大飯発電所1・2号機新設計画への反対派の運動が激しくなり、つい町長のリコール騒ぎにまで発展しました。こうした状況を見て、それまで個別に行動していた福井県嶺南地方の推進派の有志は、「安全確保を前提条件として、組織だった推進運動を展開すべきではないか」と話し合い、昭和47年1月30日小浜市において原平協を結成しました。

### 過去を振り返ると…

現在は本部を敦賀市におき、平成3年には高浜と大飯に支部が結成され、その後平成9年には美浜支部、平成15年には小浜支部そして平成20年には敦賀支部も結成されています。

支部がなかった頃は本部より各地域で女性を対象に「レディス・エネルギー・フォーラム」を開催して、原子力への正しい知識を持ってもらおうと、年に数回、発電施設などの見学会、講演会を企画・実施しました。



平成3年1月 レディス・エネルギー・フォーラム(美浜町)

昭和61年の旧ソ連・チェルノブイル原子力発電所の事故後、原子力発電に対する不安感がたかまり、原子力発電所の新規立地が困難になってきました。事故より2年後に原平協主催による「原子力発電推進大会」を敦賀市において開催し、名称は変わっていますが現在も継続しています。



昭和63年9月 第1回原子力発電推進大会(敦賀市)

### 支部活動の紹介

今回は、高浜支部を紹介します。同支部は平成3年に発足し、窪田蒸吉支部長以下本部役員10名、支部役員4名、会員数128名で原子力平和利用の広報や研修会等精力的に活動を行なっています。

代表的な活動として、毎年夏期に関西電力の若手社員を講師に迎えて地元中学生を対象に「サマースクールIN高浜」と題し、勉強会を開催しております。高校受験体験談や勉強方法のレクチャー等若手社員と交流を行ない好評を得ています。これは夏の恒

例行事となり20年目を迎えております。

また、女性部は町内外の女性団体とのコラボレーションを行い原子力の安全・安心を女性の視点から横に拡げる活動を実施しています。一方青年部は勉強会を中心に各種講演会への積極的な参加や、有志による支部便りを編集して会員への活動情報を提供しております。



高浜支部主催による地元中学生勉強会(サマースクールIN高浜)

### 委員会活動の紹介

#### PA対策委員会は…

PA (Public Acceptance) とは社会的容認、承認という意味です。PA対策委員会では、原子力発電所を中心とする日本の経済や生活を支えるエネルギーについて、専門家をお招きして研修会を計画し、原平協のメンバーを中心にセミナーを開催しています。その年、その時のタイムリーな話題を中心に、年3～4回のペースで行なっています。

たとえば内容的には、「高レベル放射性廃棄物の処理について」であるとか、「原子力発電所の耐震性能について」、「環境・エネルギーから見るもんじゅの必要性について」等々、その時の気になることを中心に専門家の話を聞き、気軽に質問できる場になるように心がけています。

そして、そこで得られた情報を他の集まりや会合等において広く伝えることが、PA対策委員会をはじめとする原平協のメンバーの役割だと考えています。

#### エネルギー問題委員会は…

エネルギー問題委員会では原平協の結成30周年記念事業として、平成15年に「原子力産業との更なる共生を求めて」をテーマに冊子を発刊し情報発信しました。

- この冊子は、1. エネルギーに対する考え方  
2. 原子力産業と立地地域  
3. 原子力産業の現状  
4. 原子力発電産業の全体像  
5. 嶺南地方のあるべき姿

などの内容について調査、研究を行いまとめ上げました。

平成18年には、地球温暖化をはじめ地球規模で環境問題がクローズアップされていることについて問題提起し、環境とエネルギーをふまえて「これから

の地球環境を考える」を発刊しました。

次の目標は、「原子力発電所の高経年化について」をテーマに、発電所の高経年化の流れをわかりやすく提示し、一般の方が正しく原子力発電所の高経年化を理解できる冊子を作成することです。

このように私たちは生活と原子力とのかがわりを調査、研究し発表しています。



エネルギー問題委員会  
作成した冊子の数々だよ。

#### えねるぎーかわらばん編集委員会は…

県民の皆様は原子力発電の正しい知識を持っていただくことや、エネルギー問題への理解活動を目的に11年前より、このえねるぎーかわらばんを年4回発行する広報活動を続けています。

これからも、えねるぎーかわらばんをよろしくお願ひします。

時の話題  
「福井の地」でいよいよ  
APECエネルギー大臣会合が開催!

2010年日本APEC(アジア太平洋経済協力)エネルギー大臣会合が、6月19・20日の両日に福井県で開催されます。APECとはアジア、北米、中南米、オセアニア等太平洋地域が参加し、経済問題や貿易のことについて、これからの目標や方向性などを協議するフォーラムです。

今年度議長国となる日本では、11月横浜で行われる首脳会議をはじめ全国10の地域で関連会合が行なわれます。その中の1つの会議として原子力施設が多く立地する福井の地で、今後のエネルギー政策についての話し合いが行われることは、とても意味深いことです。福井でこのような大規模な国際会議が開かれることは初めてのことであり、福井ブランドを世界に発信する絶好の機会となることでしょう。特に全世界の抱える大きな問題「環境問題」を解決する1つの手段となりうる原子力政策について、平和利用を訴え実績を積んできた日本の姿勢は、各関連施設の視察を通じて大きくアピールされるものと期待されています。

次号をお楽しみに…今年9月に掲載予定です。